

マイナポイントを受け取るために必要なマイナンバーカードの申請期限は、**9月末まで**となりますので、**早めの申請**がおすすめです。

最大 **20,000円分**のマイナポイントがもらえる!

第2弾
マイナポイント
お好きなキャッシュレス決済サービスで使える!

健康保険証としての利用申込み+公金受取口座の登録によるマイナポイント申込がスタート!

<p>ポイント① 本人確認書類・各種書類取得に便利</p> <p>マイナンバーカードの新規取得等で 5,000円分</p>	<p>ポイント② 医療ますます便利</p> <p>健康保険証としての利用申込みで 7,500円分</p>	<p>ポイント③ 給付金の受け取りがスマートに!</p> <p>公金受取口座の登録で 7,500円分</p>
--	---	---



※1マイナポイントの申込後、選択したキャッシュレス決済サービスでチャージまたはお買い物をする必要があります。
※2マイナンバーカードを既に取得した方のうち、マイナポイント第1弾の未申込者も含まれます。※3健康保険証利用申込み情報や公金受取口座登録情報を確認後、マイナポイント申込で選択した決済サービスにポイントが付与されます。

マイナポイントの利用は **安心・安全**です!

- マイナポイントの申込にはマイナンバーカードの「電子証明書」を使うので、なりすましなどの悪用は困難です。
- 国が買い物履歴を収集・保有することはできません。

最新の情報はマイナポイント事業ホームページをご覧ください!

マイナポイント

△マイナポイント事業をかたった不審な電話、メール、手紙、訪問等には十分注意してください。
△マイナポイントの申込みのサポートは、マイナポイント事業ホームページ記載の「マイナポイント手続スポット」でお受けください。

●問い合わせ先
新冠町役場町民生活課住民係 ☎ 0146・47・2112

新冠とアイヌの歴史 history

寛文 9年 (1669) シャクシャインの戦いが起こる。シャクシャインは松前藩によるだまし討ちにあい、最期を迎えた地がビボク(判官館)という記録がある。

文化 4年 (1807) 新冠川、厚別川沿いにコタン(集落)があり、この頃のアイヌ民族は339人との記録がある。

弘化 2年 (1845) 幕末の探検家である松浦武四郎が新冠のアイヌ人家について調査する。

明治 5年 (1872) この頃の新冠のアイヌ民族は、117戸535人との記録がある。

明治 21年 (1888) 御料牧場が新冠川沿いの姉去(現大富)に土地を求め、アイヌ民族に貸付して牧場の仕事に従事させる。

明治 32年 (1899) この頃のアイヌ民族は、御料牧場の農夫や牧夫として従事するほか、漁業にも出稼ぎに行っていた。

明治 43年 (1910) 北海道庁立のアイヌ学校が東川に開設され、この学校が後に東川小学校へとつながる。

大正 5年 (1916) 御料牧場の経営により、姉去(現大富)のアイヌ民族が、平取の上貫気別に強制移住させられる。これ以降、御料牧場の解放を求める動きが目立つようになる。

昭和 21年 (1946) 静内において全道アイヌ大会が開催され、北海道アイヌ協会が設立、同時に新冠支部も置かれる。宮内省などに対し、御料牧場の解放を求め陳情を行う。

昭和 22年 (1947) 御料牧場解放運動により、アイヌ民族は大富、万世、明和地区などに入植する。

昭和 36年 (1961) 北海道アイヌ協会新冠支部が北海道ウタリ協会新冠支部に改称する。

平成 元年 (1989) 北海道ウタリ協会新冠支部内に、新冠民族文化保存会が設立される。

平成 6年 (1994) 新冠のアイヌ古式舞踊が国の重要無形文化財となり、民族文化保存会が保存団体として指定される。

平成 9年 (1997) 国が「アイヌ文化振興法」を制定する。アイヌ文化の振興、伝統に関する普及啓発が法令化。

平成 21年 (2009) アイヌ古式舞踊が世界ユネスコの無形文化遺産に登録される。北海道アイヌ協会新冠支部に改称する。

平成 26年 (2014) 北海道アイヌ協会が公益社団法人化に伴い、任意団体「新冠アイヌ協会」となる。

平成 31年 (2019) 国がアイヌ文化振興法に変わり、「アイヌ施策推進法」を制定する。

令和 3年 (2021) 東京オリンピック最終日にアイヌ古式舞踊が披露され、新冠からも踊り手が招聘される。

令和 4年 (2022) 判官館森林公園に、新冠アイヌ協会、民族文化保存会の活動拠点となる「ポロシ生活館」が完成し、落成式が挙行される。

写真で見る町のアイヌ史



▲明治 29年 (1896年)
滑若(現泉)に住む「古川アシンノカル」が、私費を投じてアイヌ子弟のための学校を建てる。この建物は、後に北海道へ献納され、北海道庁立のアイヌ学校へと利用される。



▲昭和 58年 (1983年)
墓地改葬事業がはじまる。納骨堂が完成し、第1回イチャルパが開かれる。改葬事業は昭和62年まで続き、854体が納骨される。



▲平成 26年 (2014年)
アイヌ民族文化祭がレ・コード館で開かれ、多くの人達がアイヌ文化に触れる。